



助け合い推進会議会長賞 おかげさまで元気になりました

北澤 キクミ

須坂市新田町

平成20年2月、夫は車で帰宅しました。車は自宅の庭に止まりましたが、夫はいつまでたっても降りてきません。気になって様子を見に行くと、頭が痛くて動けないでいました。やっとの思いでこたつまでつれてきましたが、意識がなくなり、主治医の先生に往診してもらいましたが、救急車で須坂病院へ搬送されることになりました。

医師より、くも膜下出血であるといわれました。翌日には手術をし、約1ヶ月集中治療室にいました。認知症の症状があり、私の事もわからなくなっていました。その後一般病棟で1ヶ月入院し、別の病院へ転院しました。その年の12月になり、老人保健施設長寿の里に入所しました。そのころには私や家族のことはわかるようになっていましたが、この施設に入ったおかげで、著しく改善しました。小林事務局長さんがとてもよく話し相手になってくれ、自分の生き立ちなどとてもよく聞いてくれたことがとても嬉しかったようで、面会に行くと私にそのことを話してくれました。また、絵を描いたり、リハビリも積極的に取り組ませていただきました。そこで自分に気付き始めてきました。運転免許の更新や、畑仕事の事などが気になってきました。

4月から数回の外泊を体験し、9月には退所することができました。帰るに当たってとても不安でしたが、長男の嫁が、主治医の東和田病院の鈴木先生に相談したところ「北澤さんは、土のにおいがかぐとよくな

るよ。やってみてだめでも、いくらでも面倒みるよ」と言ってくれ決心がつきました。

一時帰宅のときには、私が目を離した隙に、草刈機を運転し、近所の叔父さんに知らせてもらいました。一時帰宅のときの経験を生かし、退所に当たっては、自宅の段差解消の工事を済ませ、近所の方々にも、1人で畑などに出ることもあると思い、夫の症状を正直に話し、協力を求めました。皆さん快く了解してくれました。

帰宅後は週4回デイサービスセンター花の里に通うことになりました。通い始めの頃はとても気に入っていました。自宅に帰るとみるみる体も元気になり、近所の方からも「よくなったね」と声をかけてもらい嬉しく思いました。元気になるにつれ、デイサービスへ通うことを拒否するようになりました。しかし、これはいくことが嫌なのではなく、畑で仕事がしたいという思いでした。ゲートボールや老人会での老人福祉センター行きへも私自身が行きたいので、一緒に連れて行きました。老人会の皆さんにもとてもよくしてもらい、半日で帰るつもりでいたのを、昼食のおにぎりをおすそ分けしてくれ、一日過ごすことができ夫はとても満足していました。

そこで草津温泉への旅行にも誘われました。紙パンツを使用しているため、行くことに躊躇しましたが、私が行くには、夫も連れて行かねばと思い、老人会長さんに正直に話し相談したところ、近所の介護の必要な方のご夫婦と同室にさせていただき、旅行に行くことができました。朝の5時に誰もいない時間にお風呂に行きましたが、3-4人の人が入っていました。事情を話すと受け入れてくれ、お風呂に入ることができました。いろいろお気遣いいただいた正副老人会長さんへは、感謝でいっぱいです。

認知症の症状はまだありますが、除草剤の分量の計算などはしっかりでき不思議です。農作業も隣の畑の人がビックリするほど早く終わらせてしまいます。

要介護4が要支援1になり、ケアマネージャーさんも驚かれています。私1人の力ではここまでくることはできませんでしたが、支えてくれた家族、医療関係、家に帰ることを強く勧めてくれた主治医の先生、帰るための道筋を整えてくれた老人保健施設の皆さん、在宅介護を支えてくれたケアマネージャーさんデイサービスの皆さん、そして、温かく見守ってくれたご近所の皆さんの助けがあってこそと、感謝するばかりです。

これから年を取っていくばかりですし、車の運転をしたがるなど心配なこともあります。皆さんに支えられ大好きな農作業をできる限り続けていきたいと思います。